

ARL2300 クライアント ソフトウェア 操作チャート (v2.0) (1/2)

AOR® ©2012 AOR, LTD.
All rights reserved.
www.aorja.com

Oct. 16, 2012

ここから接続開始

このソフトウェアは、受信機のVFOモード、サーチ機能(VFOサーチとCYBER SEARCHを除く)、メモリチャンネル読み出し・スキャン(セレクトスキャンを除く)のみ操作できます。

- **Address**
接続先の IP アドレス (または、ホスト名) を入力 (あるいは、接続情報リストから選択)
- **User, Password**
接続先のユーザ名、パスワードを入力
- **TCP, UDP**
接続先 TCP ポート番号と UDP ポート番号を入力
- **Connect** ボタン
上の情報を入力後、このボタンをクリックして接続開始

接続情報リストについて
接続できた場合は、**Quit** ボタンで通信を切断する際に接続情報をリストに保存します
Address欄に入力する接続先の IPアドレス(または、ホスト名)記述につき 1 行のみ保存し、**User, Password, TCP, UDP**欄の内容は最後の接続情報のみ保存します
同じIPアドレス(または、ホスト名)に複数の受信機(TCP, UDPポート番号が異なる)が設置されている場合は、識別名および"@"セパレータを前置してIPアドレス(または、ホスト名)を記述することで、識別名の異なる複数行を保存します
識別名は16文字以内の印字可能文字(空白、"@"を除き、次の記号を含む `_!\"#$%&'()*=~`)を使用できます
(例 `AR2300#1@arl2300.aorja.com`)

- **Save password**
チェックを入れておくと、**Quit**ボタンで通信を切断するときに接続情報リストにパスワードも保存 (注意:保存時にパスワードは暗号化されません)
- **Quit** ボタン
通信を切断し、接続情報をリストに保存して終了
- **Remote Receiver Power OFF**
チェックを入れておくと、切断時に接続先の受信機の電源をオフ

スライダーをマウスでドラッグ、または、マウスホイール操作で調整できます

- **AF Gain**
音量調整
- **V/U SQL, HF SQL**
スケルチレベル調整: HF SQL は、受信周波数 25 MHz 未満 V/U SQL は 25MHz 以上のスケルチ

● **Spectrum Display**
リアルタイムでスペクトラム表示(中央が受信周波数)
スペクトラム表示上で、クリックした周波数に受信周波数を変更 マウスホイール操作で周波数スパン (スペクトラム表示幅) を変更

- **SPAN (800kHz ~ 10MHz)**
周波数スパン (スペクトラム表示幅) を選択

● **MUTE** チェックを入れると、このソフトウェアでの受信音をミュート(消音)
接続開始数秒後に自動的に解除します

● **Quality** (V-low:8kHz ADPCM圧縮, low:8kHz μ -law圧縮, middle:8kHz無圧縮, high:16kHz無圧縮, V-high:22.05kHz無圧縮) ミュート有効時のみ音質(サンプリングレートと圧縮方式)を変更可能
音声が届かない場合は低レートを選択すると改善する場合があります

PC RECボタン 録音開始
このソフトと同じフォルダ内に受信音声録音 (音量は **AF Gain** に従います)

STOPボタン 録音終了
フォルダ内に日付(YYMMDD)フォルダ、録音終了時刻ファイル名(hhmmss.wav)の録音ファイルを保存 (注意:同じファイル名は上書きします)

- **Frequency**
周波数を変更 (周波数範囲: 0000.040000 MHz ~ 3150.000000 MHz)
- 周波数表示の数字上でのマウスホイール操作で周波数のその桁を変更
- Frequency欄に数字(MHz単位)で入力して[ENTER] キー(または[MHz] ボタン)
- ダイアルアイコンの上でのマウスホイール操作で STEP[kHz]毎の周波数移動

- **モード表示**
VFO
Normal Search
Memory Read
Memory Scan

文字をクリックして開くリストから目的の項目をクリックして選択できます

- **MODE**
受信機の復調モードを選択
AUTO を選択すると IF-BW と STEP も自動切替

- **IF-BW**
IF バンド幅を手動選択

- **ATT**
入力信号のアッテネータレベル、または、RFアンプを手動切替または、自動切替 (**AUTO**)

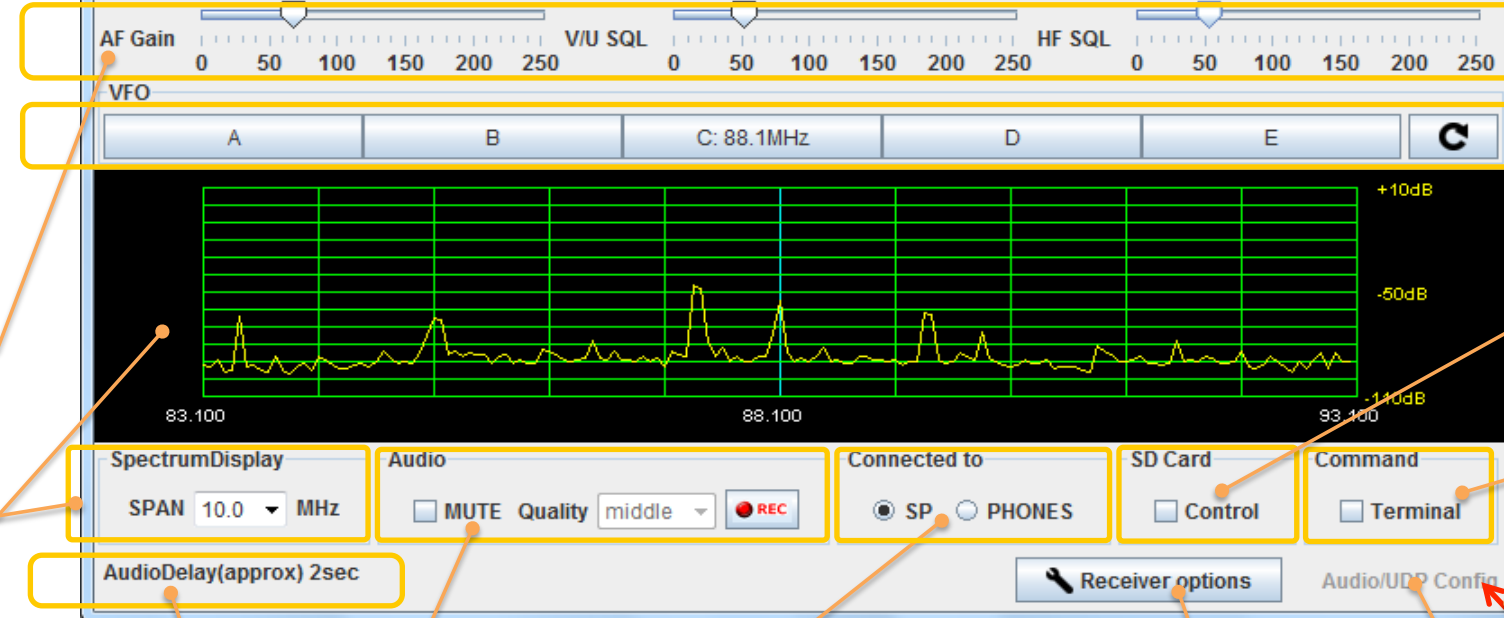
- **ANT**
アンテナの手動、または、自動切替 (**ANT-PRG**)

- **閉じる (X) ボタン**
接続情報を保存せずに、このソフトウェアを終了

- **動作中のVFO, サーチバンク, チャンネル番号の表示**

- **サーチバンクやチャンネルのテキスト表示**

- **サーチバンク, メモリバンク ウィンドウを開く**



- **Audio Delay**
オーディオ出力遅延時間などを表示

- **SP / PHONES** ARL2300 音声入力の接続先にあわせて選択 (受信機の SP ジャックまたは PHONES ジャック)

- **AudioConfig** 音が途切れる場合に 変更することで改善する場合があります
文字をクリックして開いた階層リストから目的の設定をクリックして切替え、ミュートが解除されるときに反映されます。
通常は変更不要です
Audio Delay Time[sec]: 音声遅延時間 (2~10秒、初期値 2秒)
UDP length: UDPオーディオデータ長 (200~2000、初期値 AUTO)

- **Receiver options** ボタンを押して開いたウィンドウで受信機のオプション機能を変更できます。各機能の詳細については、受信機の説明書をご覧ください
設定変更後 [Exit] ボタンを押すとウィンドウが閉じます
RF gainは、AGCが **MANUAL** のときにのみ有効
Voice SQLの Level, Delayは、Voice SQLにチェックをつけたときにのみ有効

- **STEP[kHz]**
周波数ステップを選択
- **BUSY**
スケルチが開くと黒字で表示(閉じるとグレイ文字)
- **Sメータ**
受信信号レベルを dB単位と バー長さで表示

- **VFO-A, B, C, D, E 切替, C ボタン**
受信に使用するVFOの切り替え 押したときに各VFOの周波数を表示, C ボタンで全VFOの周波数を表示

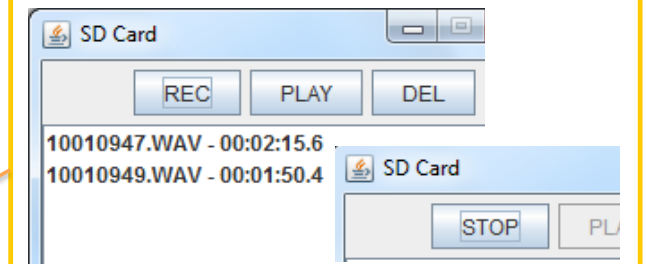
● **SD Card**
受信機に SD カードが挿入されている場合に、受信音声の録音、再生、ファイル削除をコントロール
チェックを入れると操作画面が開く

RECボタン
クリックすると録音を開始 ファイル名は録音開始時刻の月日時分 (MMDDhhmm.WAV)
(注意: 同じファイル名は上書きします)

PLAYボタン
ファイルを選択してボタンをクリックで再生開始

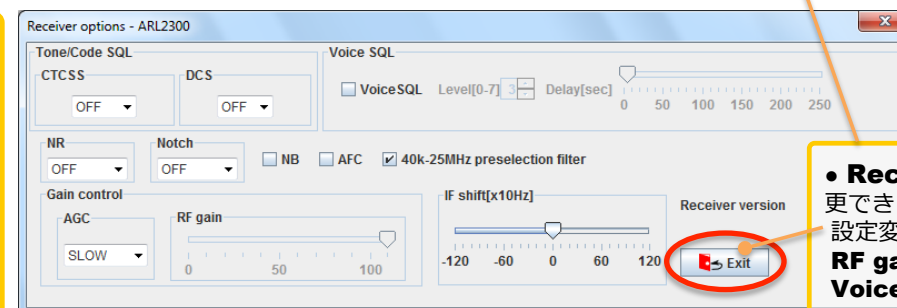
DELボタン
ファイルを選択してボタンをクリックで削除

STOPボタン
ボタンをクリックで録音、再生を終了
※ 録音ファイルの録音時間は録音終了時には表示されず、SD Cardウィンドウを再度開いたときに表示



- **Command Terminal**
ターミナル ウィンドウを開く(受信機のコマンドのテスト等に使用できます)

- **Window Resize**
マウスドラッグ操作でウィンドウサイズを変更



サーチ機能

☒ Search ☐ Memory

メインウィンドウの「[L] Search」にチェックをつけると「Search Bank」ウィンドウが開きます

■ サーチするとき

サーチバンク リストから目的のサーチバンクをクリックして選択し、[Go Search] ボタンを押す
(必要に応じてスケルチを調整してください)

■ 信号検出後、サーチ再開するとき

周波数昇順でサーチするときは [Dir+] ボタンを押す
周波数降順でサーチするときは [Dir-] ボタンを押す

■ 信号検出後、周波数等をVFO-Dにコピーするとき

[copy VFO-D] ボタンを押す
このとき、VFOモードになります

■ サーチバンクに登録/変更するとき

Set/Update search bank 入力欄で、書き込みたい BANK 番号を選択してから、各項目に入力・選択して [Bank Set] ボタンを押すことで、上のサーチバンク リストに表示されます

■ サーチバンクから削除するとき

サーチバンク リストでひとつのサーチバンクを選択して、[DeleteBank] ボタンを押すことでそれを削除します

■ サーチバンクリストを再読み込みするとき

サーチバンク リストに登録/変更などのあと、[Refresh] ボタンを押してリストを再読み込みすると Bank の順に並びます

■ 「Search Bank」ウィンドウを閉じるには

この 閉じる (X) ボタンをクリックするか、メインウィンドウの「[L] Search」のチェックをはずす
(なお、サーチモードを終わりたい場合は、いずれかのVFOを選択する、あるいは、メモリチャンネル読み出し・スキャンを開始)

■ サーチバンク内容のインポートとエクスポート

サーチバンク リストの内容をファイルにエクスポートできます
ファイルはカンマ区切りテキストです。同じ形式のファイルに情報を記載してインポートすることも可能です。半角英数字のみ使用できます

■ 「Memory Bank」ウィンドウを閉じるには

この 閉じる (X) ボタンをクリックするか、メインウィンドウの「[L] Memory」のチェックをはずす
(なお、メモリチャンネル・スキャンモードを終わりたい場合は、いずれかのVFOを選択する、あるいは、サーチを開始)

■ メモリバンク内容のインポートとエクスポート

選択したメモリバンクのメモリチャンネル リストの内容をファイルにエクスポートできます
ファイルはカンマ区切りテキストです。同じ形式のファイルに情報を記載してインポートすることも可能です。半角英数字のみ使用できます

■ メモリバンク設定

メモリバンクの名前を登録。半角英数字のみ使用できます。メモリチャンネル数を変更できます。

■ サーチグループ ポーズ時間、ディレイ時間、オートストア登録には
サーチグループ別に1つ以上のサーチバンクについて、これらの項目を設定できます。Group No.を選んで [Set] ボタンを押して登録
閉じるときは [Close] ボタンを押す

注：受信機がAR2300の場合: Group No.00 にはバンクを設定できません
AR2300は、常時 Link ON のため「[L] Link ON」の設定部がありません
「[L] AutoStore」は、検出した周波数をメモリバンク39に自動登録します

■ 信号検出後、周波数をサーチパス登録するとき

[Pass] ボタンを押す (周波数を登録後、サーチ再開します)
すでに登録されている内容は [List] ボタンを押して表示できます

■ サーチパス周波数リスト

サーチバンク別に周波数が登録されます
閉じるときは [Close] ボタンを押す。ここで削除 [Delete] も可能

■ スキャングループ ポーズ時間、ディレイ時間には
スキャングループ別に1つ以上のメモリバンクについて、これらの項目を設定できます。Group No.を選んで [Set] ボタンを押して登録
閉じるときは [Close] ボタンを押す

注：受信機がAR2300の場合: Group No.00 にはバンクを設定できません
AR2300は、常時 Link ON のため「[L] Link ON」の設定部がありません

■ 信号検出後、周波数をパス登録するとき

[Pass] ボタンを押す 登録後の内容表示はメモリチャンネル リストを再読み込みする

■ メモリチャンネル リストを再読み込みするとき

メモリチャンネル リストに登録/変更などのあと、[Refresh] ボタンを押してリストを再読み込みすると Bank の順に並びます

メモリチャンネル読み出し・スキャン機能

☐ Search ☒ Memory

メインウィンドウの「[L] Memory」にチェックをつけると「Memory Bank」ウィンドウが開きます

まずはじめに Memory bank 欄の BANK で、使用するメモリバンクを選択します。これにより、受信機の選択したメモリバンクからメモリチャンネル内容をリスト表示します

■ メモリチャンネル読み出し受信するとき

メモリチャンネル リストから目的のチャンネルを選択して [Select Ch.] ボタンを押す

■ スキャンするとき

メモリチャンネル リストからスキャン開始するメモリチャンネルをクリックして選択し、[StartScan] ボタンを押す
(必要に応じてスケルチを調整してください。)

■ 信号検出後、スキャン再開するとき

周波数昇順でスキャンするときは [Dir+] ボタンを押す
周波数降順でスキャンするときは [Dir-] ボタンを押す

■ 信号検出後、周波数等をVFO-Cにコピーするとき

[copy VFO-C] ボタンを押す
このとき、VFOモードになります

■ メモリチャンネルに登録/変更するとき

Memory bank 欄で、書き込みたい BANK 番号を選択してから、Set/Update memory channel 入力欄で、各項目に入力・選択して [Channel Set] ボタンを押すことで、上のメモリチャンネル リストに表示されます

■ メモリチャンネルから削除するとき

メモリチャンネル リストでひとつのサーチバンクを選択して、[Del.Ch.] ボタンを押すことでそれを削除します